

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理(教職特支)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	利 光 恵・久 野 建 夫						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	2	必修/選択	選 択
授業の概要 及びねらい	この科目は特別支援教育に強い興味を持つ者のために開講される。従って、教育以外の分野を目指すものは受講を遠慮してほしい。本講では肢体不自由者の心理的特性と生理、病理に関する理解を深め、自立活動への応用のあり方を概説する。 (心理) 心理特性の諸相について一般的な特性に加え、知的障害、健康障害を併せ持つ肢体不自由者の特性について解説する。 (生理・病理) 肢体不自由者の自立活動、指導法を理解するために必要な生理・病理の知識を学ぶ。						
授業の 到達目標	(心理) 1. 肢体不自由者の認知、言語、社会性、運動発達、知能などの一般的特性について説明できる。 2. 知的障害、健康障害を併せ持つ肢体不自由者の心理特性について述べることができる。 3. 1と2を踏まえ肢体不自由者の自立活動への応用を説明できる。 4. 肢体不自由であることが彼らの心理面にどのような影響を及ぼすか説明できる。 5. 肢体不自由者の自尊心形成過程について興味・関心を持つようになる。 (生理・病理) 1. 肢体不自由者の就学基準、自立活動の6区分26項目を説明できる。 2. 非重複障害者の教科の指導、特に体育の指導法について例を挙げて説明できる。 3. 教員の行う医療的ケアについて、法律的位置づけと自立活動としての意義						
学習方法	(心理) 前半は講義形式による説明を行い、後半は講義の内容理解を深めるためにビデオ視聴および実技指導を行う。 (生理・病理) 資料に基づく学生との討議、DVD教材ワークシートに基づく討議、PBL形式の授業						
テキスト及 び参考書等	(心理) 適宜資料を配付する。 (生理・病理) 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 文部科学省 海文堂出版 2009 (他の科目でも使用するので、既に持っている場合はそれを持参すること)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	○		◎		50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	◎	◎	○	◎		30	
授業態度		○	◎			10	
受講者の発表							
授業への参加度		○	◎			10	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	肢体不自由者の運動発達と認知的特性とその理解						
第2週	知的障害、健康障害を併せ持つ肢体不自由者の運動発達と認知的特性とその理解						
第3週	肢体不自由者の言語発達特性とその理解						
第4週	知的障害、健康障害を併せ持つ肢体不自由者の言語発達特性とその理解						
第5週	肢体不自由者の社会的・対人的発達特性とその理解						
第6週	知的障害、健康障害を併せ持つ肢体不自由者の社会的・対人的発達特性とその理解						
第7週	肢体不自由者の心理的側面への具体的指導について(1)						
第8週	肢体不自由者の心理的側面への具体的指導について(2)						
第9週	学校での脳性まひ事例						
第10週	脳性まひ者の教育課程、指導法						
第11週	肢体不自由者の就学基準、自立活動						
第12週	肢体不自由者の教科の指導、特に体育の指導						
第13週	上肢機能障害者の教育課程、指導法						
第14週	教員の立場から見たら医療的ケア						
第15週	自立活動としての医療的ケア						
第16週	まとめ						
備考	○第1～8回(心理:担当は利光)前期開講 ○第9～15回(生理・病理:担当は久野<建>)後期集中						